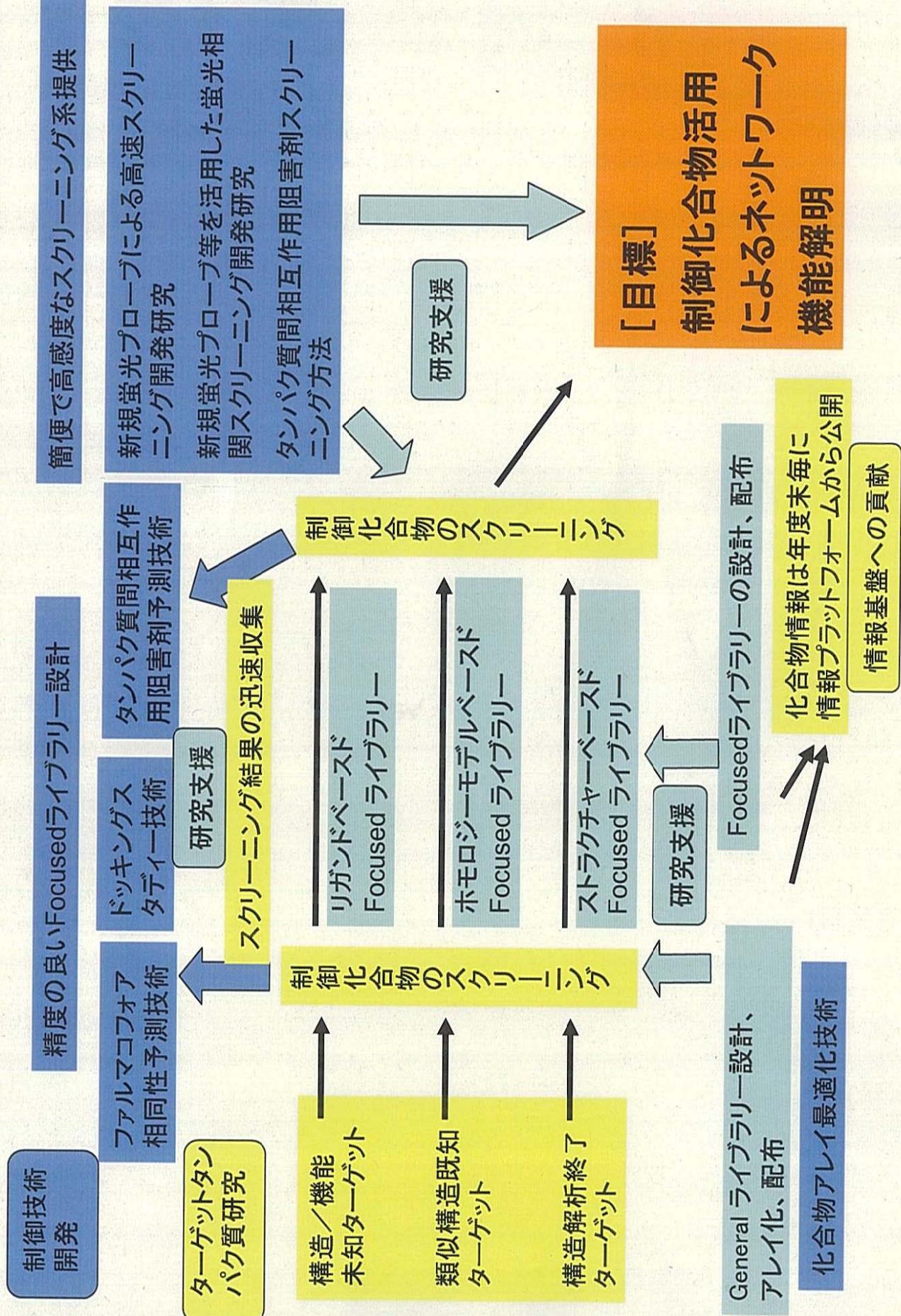


問5 技術開発における「生産、解析、制御、情報PF」と言う分類の基礎となっている各分野内容の正当化理由を示されたい（ことに制御が問題か）。

- 1 本事業の概算要求に当たって参考とした「タンパク質研究戦略推進作業部会報告書」においては、タンパク質研究を進める上で、「生産」、「解析」、「制御」、「情報PF」の領域で技術開発が必要であると指摘されている。
- 2 「生産」では最適な方法・条件で試料を作り、「解析」ではX線やNMRにより構造を解き、「制御」ではツールとしての制御化合物により機能を知り、「情報PF」では、試料、構造・機能情報、制御化合物の情報を共有化することである。
- 3 制御については、本事業において質の高い低分子化合物について化合物ライブラリーを整備することは、機能解明のための活性制御化合物の創出を可能にすると同時に、本事業終了後、広く大学等の研究者が常に利用することが可能な化合物ライブラリーとして、医学、薬学、生物学等の研究に貢献することが期待できる。
- 4 これらの領域が連携して一つのプログラムに同化されることで、ターゲットタンパク質の研究に貢献できるものとされている。

## ターゲットタシパケ質研究と制御の役割



問6 具体的にどのようなプロジェクトの実施体制を考えているのか  
(※1)。

- 1 プログラム推進委員会において、本事業の目標達成のために、ターゲットタンパク研究及び技術開発研究の研究戦略を策定し、課題の公募要領に示す研究対象・目的、研究実施方法、研究組織の構成、研究経費の規模等並びに審査基準を定める。同委員会に置く審査委員会において、課題の公募・審査を行い、本事業を実施する研究者を決定する。
- 2 ターゲットタンパク研究においては、X線、NMR等によるタンパク質の立体構造の解析を専門とする研究者と機能解析を専門とする医学、薬学、生物学、農学等の研究者が1つの共同研究チームを組み、双方の研究者の研究遂行能力と経験が相乗効果を果たしながら対象とするタンパク質ネットワーク群の構造解析と機能解明が進む課題を採択するが、課題の代表研究者は、ターゲットタンパク研究委員会の委員となり、本事業の目標達成のために、具体的な研究戦略の検討を行い、ターゲットタンパク研究の研究者間の十分な連携を図ることとしている。
- 3 技術開発研究については、生産、解析、制御の要素技術の高度化及び情報プラットフォームによる研究情報の共有化により、ターゲットタンパク研究の推進への貢献を果たすこととしている。このため、技術開発研究で採択された課題の代表研究者は、技術基盤委員会の委員となり、各要素技術の研究戦略の具体的な検討の上で研究を実施する。さらに、これらの要素技術が速やかにターゲットタンパク研究の研究者が活用できるように、プログラム推進委員会の指導のもとで、ターゲットタンパクの研究者と研究情報やノウハウに関する検討会を実施することを考えている。

問7 上記（※1）の実施体制でプロジェクトを実施する場合に予算配分は具体的にどのようにするのか。

1 プロジェクトを実施する場合には、プログラム推進委員会において、本事業の研究戦略を策定するなかで、課題の研究費の規模等を検討するので、その際に予算の配分計画も検討することになる。